

「トマト隔離ベツ栽培」の取り組み

令和3～4年度

～施設野菜の安定生産と省力化～ 【森町トマト栽培農家（50戸）】

（地域第1係・課題番号2）

1 課題の背景

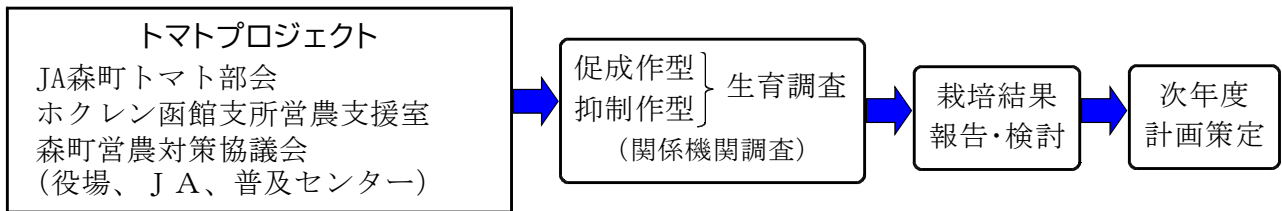
森町濁川地区では、長年温泉熱を利用し周年ハウスでのトマト栽培が行われている。そのため、土壌の養分蓄積や土壌病害及びセンチュウ類の発生が収量低迷の一因となっている。これら問題を解消するため、北斗市で先行して取り組まれている隔離ベツ栽培の検討を令和3年の抑制作型から始めた。



写真 隔離ベツ

2 活動内容

推進事項：トマト隔離ベツ栽培における収量慣行対比（89%→100%）



3 活動成果

★促成作型収量は慣行を下回る。初期の地温確保に課題

★抑制作型収量は慣行比109%を確保!!・・・しかし所得は慣行比マイナス

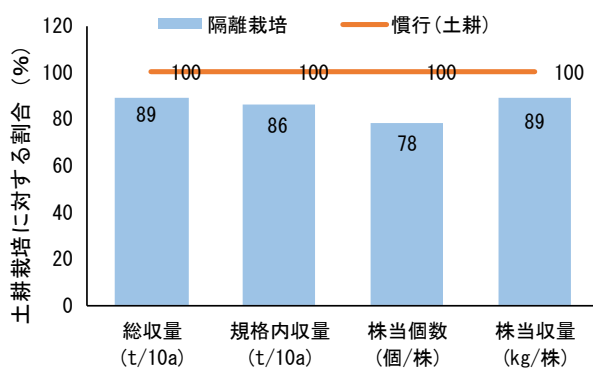


図1 促成作型の収量性 (対慣行比)

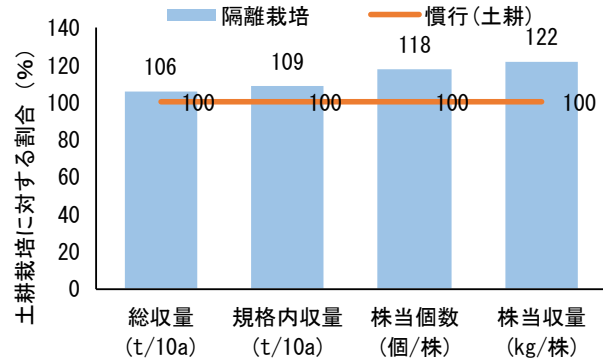


図2 抑制作型の収量性 (対慣行比)

表1 各作型の所得

作型	区	収量 (t/10a)	単価 (円/kg)	販売額 (千円/10a)	経費 (千円/10a)	所得 (千円/10a)	同左比 (%)
促成	試験区	5.8	375	2,175	1,206	969	69
	慣行区	6.5	375	2,438	1,037	1,401	—
抑制	試験区	5.5	540	2,970	1,282	1,688	94
	慣行区	5.2	540	2,808	1,014	1,794	—

※単価はR4実績

4 今後に向けて

- ①促成作型：低温期の地温確保
- ②抑制作型：高温期のかん水量増加
- ③共通：栽植密度の検討、廃水量確認によるこまめなかん水量の調整

